

コロナ禍での「まことの保育」と保育連盟



保育連盟理事長 東京・光輪幼稚園理事長・園長
高輪真澄
たかなわまさずみ

〈プロフィール〉昭和57年慶應義塾大学大学院修士課程修了。現在、善永寺住職、武蔵野大学教育学部非常勤講師（仏教保育論担当）、（公社）日本仏教保育協会副理事長、ボーイスカウト日本連盟副リーダー・トレーナー。

新年おめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス

感染症拡大防止のため振り回された一年でした。昨年1月に第1回まことの保育指導者養成実践講座の参加者の皆さんへ、私は「皆さんは『スーパースプレッダー』（強力に感染を拡大させる人）となってまことの保育を全国に広めていってください。」と挨拶しました。まさかここまで感染症が拡がるとは思いませんでした。言葉の選択を誤り、申し訳ありませんでした。私はそれもあり、感染防止に努めてきました。2月からは会議や研修もなくなり、自園での感染防止と保育を両立させるために活動してまいりました。皆

さまざま多分そうだと思います。

コロナ禍での「まことの保育」

現在、私たちはこの感染症防止のために幼稚園・こども園では、『新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドライン』及び『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生マニュアル』『学校の新しい生活様式』（文部科学省）、保育所では『保育所における感染症対策ガイドライン』（厚生労働省）などにしたがって保育を進めています。これらの目的は「持続的に児童生徒等の教育を受ける権利を保障していくため、学校における感染お

コロナ禍での保育連盟

よびその拡大のリスクを可能な限り低減した上で、学校運営を継続していく」（文部科学省）ためのものです。私たちはこれらのマニュアルやガイドラインに従いながら地域の状況も踏まえて適切な保育活動を進めていかなければなりません。もう一つ私たち「まことの保育」園では四つの保育目標を掲げています。コロナ禍ではありますが、この目標に向かってぜひいろいろな工夫をしながら保育を進めてください。

1. 阿弥陀さまをおがむ子どもを育てる。

一番大切な目標ですが、難しい問題があります。本堂や講堂が狭くて、みんな集まったら密集になってしまう。歌を大声で歌うと飛沫が飛んでしまう。人数を減らしたり、外で開催したり、工夫してぜひ継続してください。

2. ありがとうと言える子どもを育てる。

子どもたちも保護者も不安な気持ちでいっぱいです。感謝の心はいつでも変わらずに子どもたちに伝えてください。

3. お話をよく聞く子どもを育てる。

心の不安は次々と偏見や差別を生んでいきます。子どもたちや保護者に向かって機会を見つけて不安を除くようなお話をしてみてください。

4. なかよくする子どもを育てる。

差別や偏見のない御同朋の社会の実現こそ私たちの願いです。

不安を断ち切ろう

日本赤十字社は『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！〜負のスパイラルを断ち切るために〜』という小冊子（日本赤十字社HPに掲載中）の中で、このウイルスには3つの感染症があると説いています。1つ目は、病気そのもの。2つ目は不安と恐れ。3つ目はそこから発生する嫌悪・偏見・差別。この3つが負のスパイラルとなり感染症を拡大していくのだそうです。

私たちは世の中の不安や恐れからくる「負のスパイラル」を断ち切り、子どもたちを守っていかなければなりません。みんなが安心して暮らせる世の中にするため手を取り合っ